



2018-19年度R.I.テーマ
インスピレーションになろう

第2783回 例会

2019.6.6

会長あいさつ



2018-2019年度 樋口 雅之 会長

週報 No.2116	発行 2019年 6月13日
会長 樋口 雅之	幹事 宇多村海見
副会長 須田 悦正	副幹事 齋藤 修弘
編集責任者 公共イメージ向上委員会	委員長 齋藤 哲雄
ゲスト	
川崎重工業(株) 顧問 (元航空自衛官・第33代 航空幕僚長)	齊藤 治和様
上尾市自衛隊家族会 防衛セミナー実行委員会	委員長 江本 俊夫様
行事予定	
6月20日「一年を顧みて」	各委員長
6月27日 最終例会	

皆さまこんにちは。本年度第4回の例会に皆さまお越しいただきまして、誠にありがとうございます。本日は、元航空自衛官・第33代航空幕僚長 齊藤治和様、上尾市自衛隊家族会 江本俊夫様、ようこそいらっしゃいました！

さて、5月29日(水)より6月5日(水)まで、6泊8日でドイツのベルリンとハンブルクを訪れ、ロータリー国際大会に参加してきました。当クラブから国際大会には大塚バストご夫妻、大塚崇行さん、私の4名の参加でした。私は、大塚崇行さんと、さいたま大空RCの周京梅さんと3名でのツアーでした。



5月29日(水)早朝3:30に上尾を出発し、成田空港からフランクフルト経由でベルリンに入りました。ベルリンで3泊し、まずはポツダムを訪れ、ユネスコの世界遺産に登録されている、ポツダム会議が行われたツェーリエンホーフ宮殿、サンズーシ宮殿、バルベリー二博物館、アスパラガス農場などの見学をしました。ベルリン市内ではベルリンのシンボルとされているバリ広場のブランデンブルク門やベルリンの壁、シャルロッテンブルク宮殿、国会議事堂、戦勝記念塔、ソニーセンターなどを見学、またザクセンハウゼン捕虜収容所も見学してきました。



6月1日(土)お昼ころの新幹線(ICE)で約1時間40分、ハンブルクに移動し、その日の夕方、ガバナーナイトに参加しました。ガバナーナイトには200名



以上が参加し、会場の外にまでテーブルが設置されていました。翌朝はハンブルク名物の港の朝市「フィッシュマルクト」、ハンブルクの歓楽街でビートルズゆかりの地でもあるレーバーバーンなどを見学し、午後は国際大会会場のハンブルク・メッセにて開会本会議に参加してきました。会場のホールが例年よりも少し小さめだったからか、会場では座れる席を探すのにひと苦労するほど、世界中のロータリアンで溢れかえっておりました。本会議の後は、高さ112mの塔と幅111mのハンブルク市庁舎や、運河と赤レンガ倉庫などを見学しました。翌日6月3日(月)は、朝から隣町ブレイメンを訪れ、マルクト広場にある市庁舎やセントペトリ大聖堂、ブレイメンの音楽隊の銅像、ステンドグラスが素晴らしいリープフラウエン教会などを見学し、午後はドイツで有名なBeck'sビールのブルワリーを見学しビールの飲み比べなどをしてきました。

6月4日(火)昼にハンブルクを出発、フランクフルト経由で昨日5日(水)午後成田空港に戻ってきました。6泊8日の長旅でしたが、ドイツの歴史や文化に触れ、また世界中のロータリアンの熱気に包まれ、とても楽しく有意義な旅行となりました。

なお、国際大会報告の卓話が7月の例会で予定されているようですので、写真や詳細はその時にご披露したいと思います。昨日、11時間のフライトを経て成田空港に着いてみたら、私のスーツケースだけ出てこなくて、JALのスタッフの方から声を掛けられ、どうやら飛行機に積み忘れられてしまったようで、私の荷物はまだフランクフルト空港にあるということでした。人生初のロストバゲージでしたが往路でなくて助かりました。明日の午前中に宅配便で自宅に届くそうです。

来年度の国際大会はハワイ・ホノルルで開催されます。早めに登録したほうが登録料もお安く済むということです。実際、今年も早めに登録した大塚さんと私は395ドルでしたが、間際になって登録した周さんはなんと595ドルまで値上がりしていたそうです。ホノルル大会、是非たくさんの方の皆さまの登録をお願いしたいと思います。

また国際大会と同日の6月1日～4日の4日間、鴻巣RCさんの姉妹クラブである台南府城RCさんの創立25周年式典が台南にて開催され、当クラブからは深澤国際奉仕委員長と大木保司副委員長の2名が参加されました。鴻巣RCからは約30名、また当

クラブの友好クラブである台南東北RCさんからはナガノ会長、そして先方の地区国際奉仕委員長のアキラさんも参加されました。きっと現地では「ホッターラ！」の連続で手厚い接待を受けられたことと思います。深澤さん、大木さん、大変お疲れさまでした！

本年度は12月に親睦旅行と友好クラブ締結式ということで上尾から17名で台南を訪れましたので、次年度は先方が上尾に来られる年度ということになります。須田次年度会長、接待がんばってください。

いよいよ甲子園大会まであと3週間となりました。上尾RC野球部では、応援メンバーも含めて、総勢21名で甲子園を訪れます。6月15日、22日と練習試合が予定されていますので、選手の皆さん、宜しくお願いいたします。

本日の例会主題は元航空自衛官・第33代 航空幕僚長 齊藤治和様より、卓話を頂戴いたします。よろしくお願いたします。

幹事報告

宇多村 海見幹事

◇6月のロータリーレートは1ドル=110円です。
◇上尾市社会福祉協議会からの連絡です。「平成29年度に社会福祉法が改正されたため評議員の任期を2年から4年に変更いたします。このため慣例による3つのRCの輪番年度が変更になります」とのことです。当クラブは2017年から評議員をだして、任期が2021年6月までになりました。

委員長報告

地区国際奉仕委員会 大木 保司委員

会長あいさつにあったように台南に行きました。台南府城RCさんの創立25周年式典には、台南東北RCさんはナガノ会長さんのみの出席でした。翌日せっかくだからということで台南東北RCさんのメンバー8名と、ホッターラをしてきました。その際、次年度・須田会長宛に親書を預かってきました。10月19・20日に、台湾の「東北」と名がつく10クラブ合同のパーティーが

以上が参加し、会場の外にまでテーブルが設置されていました。翌朝はハンブルク名物の港の朝市「フィッシュマルクト」、ハンブルクの歓楽街でビートルズゆかりの地でもあるレーバーバーンなどを見学し、午後は国際大会会場のハンブルク・メッセにて開会本会議に参加してきました。会場のホールが例年よりも少し小さめだったからか、会場では座れる席を探すのにひと苦労するほど、世界中のロータリアンで溢れかえっておりました。本会議の後は、高さ112mの塔と幅111mのハンブルク市庁舎や、運河と赤レンガ倉庫などを見学しました。翌日6月3日(月)は、朝から隣町ブレイメンを訪れ、マルクト広場にある市庁舎やセントペトリ大聖堂、ブレイメンの音楽隊の銅像、ステンドグラスが素晴らしいリープフラウエン教会などを見学し、午後はドイツで有名なBeck'sビールのブルワリーを見学しビールの飲み比べなどをしてきました。

6月4日(火)昼にハンブルクを出発、フランクフルト経由で昨日5日(水)午後成田空港に戻ってきました。6泊8日の長旅でしたが、ドイツの歴史や文化に触れ、また世界中のロータリアンの熱気に包まれ、とても楽しく有意義な旅行となりました。

なお、国際大会報告の卓話が7月の例会で予定されているようですので、写真や詳細はその時にご披露したいと思います。昨日、11時間のフライトを経て成田空港に着いてみたら、私のスーツケースだけ出てこなくて、JALのスタッフの方から声を掛けられ、どうやら飛行機に積み忘れられてしまったようで、私の荷物はまだフランクフルト空港にあるということでした。人生初のロストバゲージでしたが往路でなくて助かりました。明日の午前中に宅配便で自宅に届くそうです。

来年度の国際大会はハワイ・ホノルルで開催されます。早めに登録したほうが登録料もお安く済むということです。実際、今年も早めに登録した大塚さんと私は395ドルでしたが、間際になって登録した周さんはなんと595ドルまで値上がりしていたそうです。ホノルル大会、是非たくさんの方の皆さまの登録をお願いしたいと思います。

また国際大会と同日の6月1日～4日の4日間、鴻巣RCさんの姉妹クラブである台南府城RCさんの創立25周年式典が台南にて開催され、当クラブからは深澤国際奉仕委員長と大木保司副委員長の2名が参加されました。鴻巣RCからは約30名、また当

幹事報告

宇多村 海見幹事

◇6月のロータリーレートは1ドル=110円です。
◇上尾市社会福祉協議会からの連絡です。「平成29年度に社会福祉法が改正されたため評議員の任期を2年から4年に変更いたします。このため慣例による3つのRCの輪番年度が変更になります」とのことです。当クラブは2017年から評議員をだして、任期が2021年6月までになりました。

委員長報告

地区国際奉仕委員会 大木 保司委員

会長あいさつにあったように台南に行きました。台南府城RCさんの創立25周年式典には、台南東北RCさんはナガノ会長さんのみの出席でした。翌日せっかくだからということで台南東北RCさんのメンバー8名と、ホッターラをしてきました。その際、次年度・須田会長宛に親書を預かってきました。10月19・20日に、台湾の「東北」と名がつく10クラブ合同のパーティーが

開催されるそうで、樋口会長と須田会長エレクトが招待されています。どうぞよろしくお願いたします。

また台北に行き、地区の友好関係を築こうということで打ち合わせをさせていただきました。こちらはガバナーと相談して進めさせていただきたいと思えます。



野球部キャプテン 齋藤 哲雄委員

今月29日、いよいよ甲子園大会が開催されます。部員の皆様には練習にご参加いただきありがとうございます。29日に向けて、15日(土)・22日(土)両日18時から、上尾市民球場でナイターで練習試合を予定しています。メンバー以外の方もお越しいただけたらと思います。なお大会まで、尾花監督のバッティングセンターでは、尾花監督のご厚意で練習ができますので、がんばっていただければと思います。

例会主題

自衛隊の実力と将来の方向性

川崎重工業株式会社 顧問
(元航空自衛官・第33代 航空幕僚長) 齊藤 治和様

皆さまこんにちは。上尾市平塚に自宅を構える齊藤治和と申します。結婚してから21回の引っ越しをして、平成6年に上尾に来てから25年間、家族はずっと自宅にいますが、私は仕事の関係でそのうち約17年は単身赴任であちこちに行っていました。平成27年12月に航空幕僚長として自衛隊をおえました。その後3年半、川崎重工業の顧問をしています。

福井県生まれで、高卒後に防衛大へ入りました。その後、航空自衛隊のパイロットのコースを進み、戦闘機パイロットでF-104に1年半乗り、F-15が導入されてからずっとF-15に乗っていました。部隊は宮崎県・新田原、

小松、茨城県・百里、千歳等々、戦闘機部隊か、防衛相へと、ピストンで異動する勤務でした。

指揮官職でパイロットというと、飛行隊長、飛行群司令、航空団指令、方面隊司令官、航空総隊司令官、航空幕僚長という、すべての指揮官職を務め、ありがたかったなと思っています。ただ、パイロットをしていると、2か月ほど前に三沢で最新鋭の飛行機が事故で落ちたように、宮崎の新田原では6名の同僚を事故で亡くしています。事故で友を瞬間的に亡くするというのは、言葉で言い表せない辛さがあります。この辛さは乗り越えなければならぬのですが、パイロットにとっていちばん嫌なのは事故が起きてしばらくして飛行再開になった時、コックピットでいろいろな想いを巡らせてしまうことです。

さて日本は明治の開国以来150年、他国との安全保障の問題は、現在まであまり変わっていません。昨年、一昨年と、航空自衛隊が行っているスクランブルの回数は1,000回を超えています。1回の飛行機が飛んでいてそれを挟むように他国の飛行機が並んで飛んで来て、まるで国際航空ショーのようです。意外と緊張しませんでした。訓練で他国の実力を知ることができますが、日本の航空自衛隊のパイロットの腕は世界一だと思います。

ところで、他国との状況は、一般市民はマスコミを通じてしか知ることができません。マスコミの情報はよく注意しないといけません。それは、マスコミは売上上げるために、事象にロックオンして盛り上げて報道するので、我々はそれにとらわれがちですが、情報は「点」ではなく、過去からの流れから「線」で見ないといいません。また、国会ではぜひ日本の安全についての議論をしたいと考えています。そして「専守防衛」は素晴らしいですが、言葉の裏側を見ると、必ず犠牲・痛みを伴うものだと知っておかないといけません。我々の専守防衛は、必ず抑止から始まります。平時においてよからぬことが起きないよう、日米同盟のスキームの中で力を蓄えておきます。そういう状態で、それでも我が国にやってくる者には、やむなく阻止する。そして元の状態に復させ、野望を砕きます。そのための痛みは、ご理解いただきたいなあと思います。

それで現在の厳しい安全保障環境や政治的状況をみて、今後、自衛隊がどのように進んでいくかという考え方は、多次元統合防衛力=クロス・ドメイン作戦遂行となっております。今までは陸海空各自自衛隊ごとに区分して捉えて作戦遂行の概念がありましたが、今までの区分枠を払い、陸海空各自自衛隊の能力を有機的に融合させ、その相乗効果により、陸海空の最も効果的なアセットを効果

的にも、タイミングを失せず展開させるのがクロス・ドメイン作戦です。

クロス・ドメイン作戦を踏まえうえて、各自自衛隊は特に優先すべき事項が決まっています。まず従来までと違った、新しい戦い方・守り方が3つあります。それは「サイバー」「宇宙」「宇宙」の各領域です。

「サイバー」では優れたスキルを持った方を採用して、且つ忠誠心を養っていただきたいと思います。「電子戦」では訓練で私も経験しています。レーダーにノイズを浴びせられたり、気づかないうちに二セのターゲットをレーダーに登録させられて、目視と違った状態に陥らせられたりしたことがあります。電子戦はとても重要なのですが、護衛艦や戦闘機を購入するのと違って、目に見えない戦いなので予算がつきづらいです。だからこれからは電子戦で力を入れていきたいと思えます。そして「宇宙」ですが、人工衛星を使うことです。誤信号や妨害電波なども飛び交っていますので、人工衛星は大事な領域だと思えます。

具体的に各自自衛隊がどのような方向に進もうとしているか述べてさせていただきます。陸上自衛隊は、島嶼事態侵攻対処や着上陸侵攻対処の能力をいっそう向上させようとしています。海上自衛隊は、海上優勢の確保、周辺海域における警戒監視能力をいっそう向上させようとしています。航空自衛隊は航空優勢(制空権)の確保、周辺空域における常統的警戒監視能力の向上、宇宙領域専門部隊の新設となっています。

各自自衛隊とも方向性は決まっています。予算もつけられる

かもしれませんが、悩みがあって、それは人が不足していることです。なので人的基盤の強化が求められています。

最後に少しだけ体験談を語ります。個人・部隊でも訓練をし続けていないと、能力は維持できないということです。そして、「常に限界にチャレンジする」ということを指揮官がうるさく指導していきます。同時に、単なる勇敢・威勢の良さでの限界はもちろん知っていて、「その引き際(やめ時)も知っていないといけません」と思えます。また、若い隊員は普段はまだ頼りないところがありますが、東北大地震の時の活躍がそうであったように、任務の目的をしっかりと理解してもらえば、指揮官の期待以上に熱く燃えて任務を遂行する、ということです。

長くなりましたが、現在の陸海空自衛隊の能力はとても優れているので、ぜひご安心いただければと思います。ご静聴いただきありがとうございます。



齊藤治和様、卓話をご披露いただきありがとうございます！

出席率			
出席	会員数 38	出席数 28	
欠席	欠席数 10	(%) 73.68	
前々回確定修正(%)	94.74	欠席数 2 (M・U)	12

